

JUST NOW JATS

特定非営利活動法人 日本胸部外科学会



09
2010-05

CHALLENGE FOR THE FUTURE!

1・はじめにー臓器移植の素朴なスタート

ギリシア神話に登場するキメラやケンタウロスのように、より強い体を望み、あるいは別個体の組織を借りても、強く健やかでありたいという願望は人類の深部に長く存在し続けてきたと考えられる。

近代的な臓器移植学は、20世紀初頭のアレキシス・カレルの血管吻合法に始まるが、約100年の時を経て日常の臓器移植医療へと進化、発展を遂げている。そして世界一流である日本の医療の数少ない「遅れた部分」でもある。

医学としての臓器移植の発展は勿論目指すべきものであるが、医療としての実践（医療行為）は社会から一定の規制を受けることは避けられない。移植医療をシステムとして社会に定着させる場合にはなおさらのことである。各臓器移植を扱う専門職能集団としての各学会の基準、指針から、関連学会横断的な共通項を抽出した公的な基準、指針、さらに国家によ

改正臓器移植法の問題点

科学史から見た 脳死臓器移植法改正 の考察

る強制力を持った基準（法制化）まで、重層的な関係にある。本邦の臓器移植の持つ特異な歴史から臓器移植法は不可避であり、そのもとで約12年間医療の現場は苦悩を深めてきた。

有効に働くこと、そして術後の生涯にわたり存続する移植臓器の抗原性をいかに制御して行くかなどの問題がある。したがって移植医療とは、総合的の社会政策のもとで行われる医療行為の一つであり、移植

臓器移植に関連する事件から不幸な「冬の時代」に突入し、約20年間を不毛の議論に費やした。言論人、文化人、法律家、倫理学者などが、こぞって移植医療について発言し、医師側はむしろ発言を控えざるを得ない時間が流れた。ようやく1980年代に入り、決定的に遅れてしまった移植医療を取り戻そうと、学会レベルでの基準、指針作りが始まり、やがて行政主導の移植関係学会合同委員会が作られ、厚労省内にも臓器移植対策室が作られた。脳死判定基準と判定施設、臓器搬送ルール、患者登録の手順、全国統一の臓器移植ネットワークの創設、移植施設の特定制業、施設基準の統一など多くの作業が行われ、それらの集積の結果、議員立法による臓器移植法が成立し、1997年10月より施行された。この間の関係諸氏の努力と費やしたエネルギーは他のいかなる医学分野と比較しても飛び抜けている。それは移植医療が、単なる外科手術ではなく、二個の個体の生命に

日本では法律に基づいて臓器移植が行われるため、全症例が日本臓器移植ネットワークを経由する。平成9年に臓器の移植に関する法律が施行されてから平成22年1月26日までに、同法に基づいた脳死判定の内86名から臓器の提供を受けた。最新の平成22年1月26日時点では脳死臓器移植の実施数は心臓69（66例、肺66（49例、肝臓67（52例、腎臓103（94例、膵臓12（12例、小腸6（5例）例である。（カッコ内生存数）

12年間のこの移植実施数の少なさは、移植実施国の中でも飛びぬけている。移植希望登録者数は平成22年2月1日現在で心臓159、肺139、肝臓280、腎臓12040、膵臓169、小腸3であり、実施数と比べ、その差は大きい。

「ムラを出でよ、私利を捨てよ」の考えは移植医療の根幹を成すものである。法改正後、協議会の中にワーキングを作り、「臓器移植法改正後の移植医療の体制整備に関する提言」をまとめ各方面に発信した。

2. 脳死臓器移植法施行に至るまでの経緯

米国では、1967年末心臓移植が開始された2年後には大統領委員会

4. 脳死臓器移植法改正を真に新しい出発とするために

5. 「国家はその国のレベルの医療しか持たない」

提供者と受容者の二人の精神と肉体が関係すること、両者が地理的かつ時間的に至近距離にいななければならないこと、両者を結びつけるために情報、通信、搬送などの社会システムが

が作られ、移植医療の持つ社会との様々な接点において起き得る諸問題についての解決策の検討が、バテル戦略研究所に投げられ問題点の整理が行われた。

本邦は1960年代に心臓移植に関連する事件から不幸な「冬の時代」に突入し、約20年間を不毛の議論に費やした。言論人、文化人、法律家、倫理学者などが、こぞって移植医療について発言し、医師側はむしろ発言を控えざるを得ない時間が流れた。ようやく1980年代に入り、決定的に遅れてしまった移植医療を取り戻そうと、学会レベルでの基準、指針作りが始まり、やがて行政主導の移植関係学会合同委員会が作られ、厚労省内にも臓器移植対策室が作られた。脳死判定基準と判定施設、臓器搬送ルール、患者登録の手順、全国統一の臓器移植ネットワークの創設、移植施設の特定制業、施設基準の統一など多くの作業が行われ、それらの集積の結果、議員立法による臓器移植法が成立し、1997年10月より施行された。この間の関係諸氏の努力と費やしたエネルギーは他のいかなる医学分野と比較しても飛び抜けている。それは移植医療が、単なる外科手術ではなく、二個の個体の生命に

念願の臓器移植法の改正A案が衆院平成21年6月18日、参院7月13日可決成立した。1年後の本邦実施に向けてシステムの整備が進められている。1997年の臓器移植法の施行時には余裕はわずか3ヶ月であった。しかし、そこには数年

にわたり並行して走る凡そ36の班研究やワーキンググループの精密な作業があり、施行時にはすでに準備は完了していた。今回は改正案成立の予測が立たず、細部の整備はこれからである。これからの作業は実は極めて重要であり、これに失敗すると再び「移植禁止法」の再現となりかねない。10年余りの経験をフルに生かすことが肝要となろう。臓器移植関連学会協議会の今後重要である。

臓器移植医療があることで、我々は生涯会わなかったかもしれない多くの異分野の人材と出会い昼夜を分かたぬ仕事を共にし、各施設にも比較的自由に出入りさせてもらってきた。日本地図を眺め、距離と地勢を理解し、交通手段を熟知した。



小柳 仁
(東京女子医科大学名誉教授、聖路加看護大学臨床教授、臓器移植関連学会協議会代表世話人)
1936年新潟県出身。新潟大学医学部卒業。パリ大学、ミュンヘン心臓センター研究員、国立循環器病センター心臓外科主任医長、東京女子医大循環器外科学教室主任教授、聖路加国際病院ハートセンター長などを歴任。日本胸部外科学会、日本移植学会、日本人工臓器学会の各名誉会長、米国胸部外科学会正会員
趣味：クラシック音楽鑑賞、低山歩き
好きな言葉：全身全霊を込めて

マの John Kirkin は、'Surgery: Operating someone who has no place to go, と述べた。リスクの高い外科に身を投じようとする若い医師に対する檄文でもあろう。'Surgery, をそのまま 'Transplantation, と置き換えても今日の意味はある。臓器移植を正しく進め、そのことを通して medical profession の復権を実現してゆきたい。社会との接点を充分考慮しつつも professional governance を取り戻したいと願っている。

2面右上に関連記事「臓器移植法改正の要点」あり



日本食道学会学術集会 の開催にあたって

関連学会開催情報

第64回日本食道学会学術集会が平成22年8月31日と9月1日に久留米市で開催されます。本学術集会のテーマを「日本食道学会 Consensus 2010—今、私達はどこにいるのか」としました。この趣旨は、現在の食道疾患の研究や診療において合意できることとできないことは何かを探ることです。合意できることは「食道癌診断・治療ガイドライン」改訂の際の参考になりますし、できないことは今後の研究対象となります。本学術集会では、私自身が迷っている問題点をテーマとして取り上げました。学術集会の最後にアンサーパッド方式による多数決で(？)現時点でのコンセンサスを伺いたいと考えています。

特別講演では「世界の食道外科の歴史」(Dr Stewart 教授)、「日本史に現れた食道癌(掛川暉夫教授)」を企画し、食道疾患およびその治療を歴史的に振り返っていただきます。また、指定シンポジウムでは「食道科認定医と食道外科専門医の位置づけ」で日本食道学会の専門医制度について他学会の専門医制度担当者に見学を伺います。また、会長講演「食道癌取り扱い規約を通読して」および指定シンポジウム「食道癌取り扱い規約の将来」を企画し、他学会の癌

取扱い規約担当者と議論することになりました。SDEES 合同シンポジウム「食道胃接合部癌の治療」では日本胃癌学会および海外の専門家と議論する場を設けました。

公募シンポジウムとして「食道疾患に対する前向き比較試験、多施設研究、全国登録報告」、ビデオワークショップとして「食道再建術・吻合法の工夫」「食道損傷の治療」、ワークショップとして「GERD, NERD, PLRD の診断と治療」「Stage III 食道癌の治療…食道切除か化学放射線療法か、導入療法は合理的選択基準となりうるか?」「Stage Va (T4, MO) 食道癌の治療…手術は必要か?」「頸部食道癌の治療…手術と化学放射線療法の接点」を企画し、私自身が興味のあるテーマを集めました。

石橋美術館の特設展示場を借り切ってポスター展示を行います。学会参加者は美術館常設展示の入場料が割引されますので、時間があれば青木繁や坂本繁二郎の絵画も見物してください。要望演題として、「食道疾患におけるインターベンション治療…気管内ステントと血管内ステント」「食道疾患のクリニカルパス」「食道疾患術後の難治性合併症とその治療」「食道 GST: 診断とその治療」「根

治的化学放射線療法後のリンパ節再発または遺残の治療(食道腫瘍CE例に対し)」「食道癌に対する2nd line および3rd line の化学療法」「食道癌の免疫療法」の他、一般演題(ポスター会場でのクリニカルライブビデオを含む)も予定しています。医師以外にもコメディカルの発表も受け付けます。多くの会員およびコメディカルの参加を期待しています。

8月末の九州はまだ暑い盛りです。ノーネクタイでの参加をお願いします。なお、教育セミナー「食道表在癌の診断と治療」は9月2日鹿児島市(国際食道疾患会議会場)で開催いたします。事前登録もできますので、日本食道学会のHPでお申し込み下さい。

藤田博正

(久留米大学医学部外科学教室)

卒業大学: 慶應義塾大学医学部

1972年 慶應義塾大学医学部卒業、慶應義塾大学医学部訓練医(外科学教室)

1982年 産業医科大学助手(第二外科学講座)

1985年 久留米大学医学部講師(第一外科学講座)

1990年 ドイツ Technical University of Munich 留学

1994年 久留米大学医学部助教授(第一外科学講座)

2000年 久留米大学医学部教授(外科学講座)

趣味: 囲碁(NHK杯テレビ観戦しながら昼寝) 好きな言葉: 熟慮断行



国際食道学会 開催情報

The 12th World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus (ISDE 2010 Congress)

The 12th World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus (ISDE 2010 Congress) will be held from September 2 to 5, 2010 in Kagoshima, Japan. We would like to invite our colleagues from all over the world to the congress where you will have a multitude of opportunities to exchange opinions on the state-of-the-art diagnosis and treatment of esophageal disorders and to further your understanding of this field. The Congress will include oral and poster sessions as well as symposia and international workshop where participants can freely exchange ideas.

Travel awards are planned for 30 abstracts containing descriptions of original. We are delighted to announce that the publisher of our journal, Diseases of the Esophagus, will fund two **Wiley-Blackwell Young Investigator Awards** for original research submitted for the 2010 ISDE Congress.

The ISDE 2010 Congress will provide participants not only a wealth of scientific knowledge but also an opportunity to enjoy the charming traditions of rural Japan. We also guarantee that Kagoshima's pristine nature and warm hospitality will make your stay a truly memorable one. Shiroyama Kanko Hotel, the venue of the congress, is located on the top of the hill looking over Kinko Bay to the magnificent Sakurajima, an active volcano. On behalf of the Congress organizers, I would like to invite you to join us in making this Congress a highly successful one.

Scientific Program

The Program will include Symposia, International Workshop, Basic Science, State of the art lecture, Nakayama, Dent Lecture, DeMeester Memorial Lecture, Consensus Conference, Video, and Oral and Poster sessions.

Social Program

Day0 (Sept.2) Opening ceremony and opening reception (Shiroyama Kanko Hotel)
Day1 (Sept.3) Gala dinner (Shimadu Shigetomisho)
Day1 (Sept.4) Get Together Party (in Sakurajima)



Takashi AIKOU
President of the ISDE
2010 Congress

愛甲 孝

(鹿児島大学 理事)

1969年 九州大学医学部卒業

1994年より鹿児島大学大学院医歯学総合研究科腫瘍学腫瘍制御学教授

2002年より鹿児島大学医学部附属病院長

2007年より現職

◆専門分野: 消化器外科学、腫瘍外科学、リンパ学

趣味: 温泉、ゴルフ、家庭菜園

好きな言葉: 敬天究理(至誠に徹し、天を相手に我が誠を尽くす。自然科学の理を究める。)

学会の活動を多くの人に知ってもらおう!

会員のみならず、誰にでも気軽に読んでもらえる紙面作りで、胸部外科領域や学会の活動をより多くの方へ伝えます。

若手医師や学生に、 胸部外科領域に関心をもってもらおう!

胸部外科領域の「魅力」や「やりがい」を若手医師や学生に伝え、この領域への関心をより深めてもらいます。

記者は、会員のみならずです!

このNewsletterは、みなさんに書いていただいた記事で構成されています。是非ご協力いただき、より充実した内容にしていきたいと思います。

アイデア大募集!

「こんな企画があったら…」や「ためになるのでは…」というアイデアを募集しています。お名前・所属を添えて、以下のメールアドレスまでお送りください。

*採否につきましては、採用をもって代えさせていただきます。

jats-adm@umin.ac.jp

編集後記

今回のNews Letter 5月号は改正臓器移植法の施行が7月に迫ってきた為に、これに関する記事を近藤丘先生と小柳仁先生に御願いました。改正の要点と残された問題点が簡潔に述べられていて、皆様の理解に大変役に立つと思います。また、関連学会として第12回国際食道学会(SDE)の愛甲孝会長と第64回日本食道学会の藤田博正会長に学会開催のご案内をいただきました。さらに各領域の専門医、認定医の新規取得者と更新者にそれぞれの体験を語っていただきました。これからこれらの領域の専門医をめざす若い人たちの参考になればと願っています。

広報委員会 委員長

安元公正